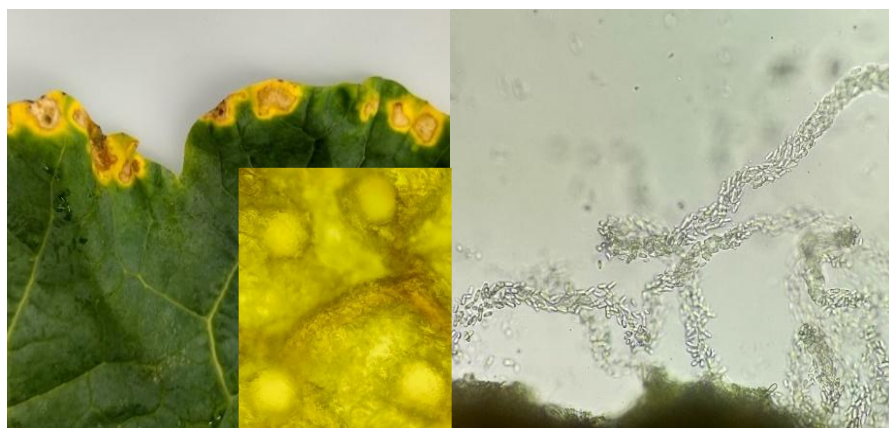


10月上中旬頃にみられるブロッコリー葉の病害



1. ブロッコリー黒腐病

葉縁から黄色くさび型病斑を生じ、病斑内の葉脈は黒変しています。葉縁からの黄色斑は糸状菌による輪紋病に似ていますが、輪紋病は円形、黒腐病はくさび型の病斑です。黒腐病では、黒変した葉脈を中心に病原細菌が流出してくるのがみられます（赤円内）。



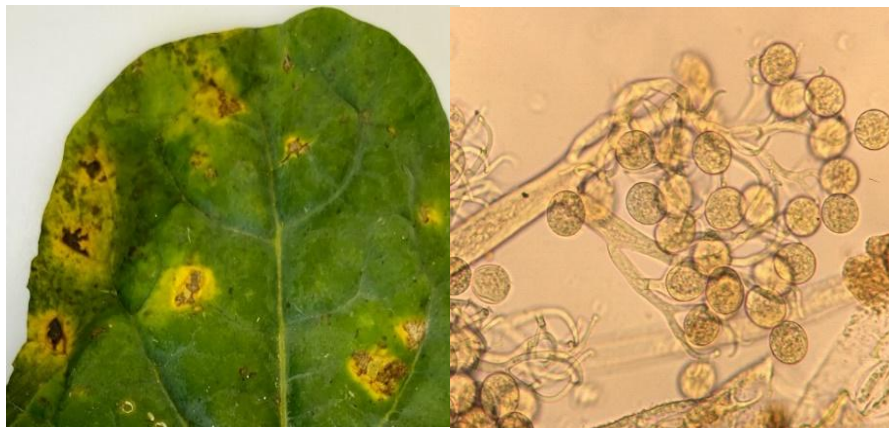
2. ブロッコリー輪紋病

葉縁に、径 1cm 前後、黄色の明瞭な縁取りを有する淡褐色円形の病斑を生じます。病斑周縁の黄色が特徴です。病斑中心部には球形の分生子殻を形成します。分生子殻からは無色・単細胞の分生子が塊状に「蛇玉花火」のように噴出してきます。



3. ブロッコリー黒すす病

大小様々、周縁黒紫色の灰褐色、円形病斑を形成します。病斑部にセロハンテープを押し当てるとアルタナリア菌の分生子を容易に多数採取できます。病原菌アルタナリア・ブラシキコーラは分生子のビーク（先端の突出部）が短く突起状であるのが特徴です。



4. ブロッコリーべと病

葉表に周縁不明瞭な退緑斑点を形成し、葉裏には白色～灰色のカビを霜のように生じます。葉裏のカビをセロテープで移し取って顕微鏡で観察すると、樹枝状に分枝した分生子柄上に球形の分生子を見ることができます。